

して、二次元キャピラリーカラムを用いたナノ LC による分離と MS/MS を組み合わせたプロテオーム解析法が紹介された。数多くのペプチド/タンパク質の解析のハイスループット化を目指した平行前処理、そしてモノリシカラムを応用した例が解説された。

そして五つ目の講演は、家氏 淳氏（島津製作所）から、「プロテオーム解析用 2 次元 nano/micro HPLC システムについて」と題して、プロテオーム解析の分野でタンパクの網羅的解析手法として位置付けられ利用されている方法であるショットガンメソッドが紹介された。この方法は、あらかじめタンパクを酵素消化した試料を HPLC により二次元展開して分析する方法で、カラムスイッチング技術を用いた 2D-HPLC システムを使用して、微量なタンパク質を測定し、数多く同定した例などが説明された。

最後に、当研究懇談会の中村 洋委員長（東理大薬）から「高分子物質の分析法の現状と将来」と題して、糖鎖の構造解析法として糖鎖末端を切断しながら、高感度誘導体化測定する方法などについて解説され、まとめの講演をいただいた。

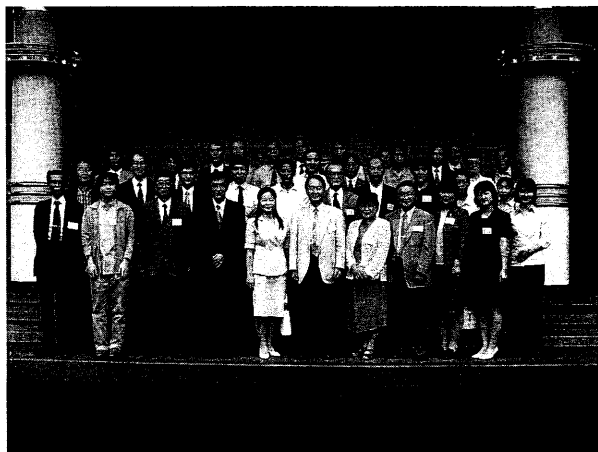
討論により、多少時間が押してしまい 18 時近くまでの講演となってしまったが、久々に取り上げた高分子成分の話ということもあり、盛況のうちに閉会となった。反省点として、天然・生体・合成高分子という幅広い分野にまたがってしまった点を今後の課題とした。

〔日本分光株式会社 坊之下雅夫〕

第 319 回高分子分析研究懇談会（夏期合宿）

高分子分析研究懇談会 319 回例会（夏期合宿）が 7 月 4 日、5 日の 2 日間、ラフォーレ琵琶湖で開催された。前日の雨も上がり 41 名の参加者を迎えることができた。

まず、本懇談会の寺町運営委員長（工学院大）より開会の挨拶があり、初日のセッションがスタートした。最初に、古川陸久氏（長崎大）より「ポリウレタンのマイクロ相分離構造を探る」と題する講演があった。他の高分子材料にない物性発現を解明するため、一次構造の化学分析やマイクロ相分離構造の形態観察、分光学的評価など総合的な評価が行われていることが示された。様々な手法を総合的に用いて評価することの重要性を示す意義深い講演であった。次に、「近接場分光分析の現状と可能性」と題する講演が成田貴人氏（日本分光）によって行われた。近接場分光分析では、測定対象に近接するプローブの先端に設けたナノメーターオーダーの穴からにじみ出る光を分光することで、従来の手法では不可能な波長限界を超えたサブミクロンの空間分解能で表面状態を観測できる。プローブの作成法や新規使用法など興味深い話題が提供され、今後の展開に興味をもたれる。初日の最後は、「高分子の HPLC-LC-CAP と TGIC-」と題して寺町信哉氏（工学院大）より講演があった。日頃、私たちが道具として使っている HPLC の分離機構について、その解釈と歴史的背景から始まり、臨界条件クロマトグラフィーと温度勾配相互作用クロマトグラフィーについて最近の研究動向が解説された。分離機構に対する理論的アプローチの重要性を示すと同時に課題も示した考えさせられる講演で



高分子分析研究懇談会夏期合宿 2003（ラフォーレホテル琵琶湖前にて）

あった。

夕食後、「分離分析」、「ウレタン」、「近接場赤外ラマン」の 3 分科会に別れ、活発な意見交換が 2 時間にわたり行われた。分科会のあと、合宿恒例の懇親会（酒盛り）が賑やかに行われ、夜遅くまでいろいろな話題に花が咲いた。

翌朝の最初は、小川俊夫氏（金沢工大）から「漆の耐光性と文化財」と題する講演が行われた。歴史的な文化財の漆塗りについて、文化財保護、補修の観点から化学分析が果たす役割の興味深い話題が提供された。特に、漆塗りが紫外線に弱いことが実験的に示された。海外に流出している多くの漆塗りの文化財をどう保護していくのか、日本人として考えていかなければならない問題である。最後に、「微量分析としての裁判化学」と題する講演が肥田宗政氏（愛知県警科捜研）によって行われ、土壌、射撃残渣、麻薬分析など犯罪捜査に日々貢献する化学分析の例が示された。講演の緊張と内容の生々しさを紙面ではお伝えできないのが残念である。それにしても、前回の講演よりもより深刻な内容は、昨今の社会状況を反映していると感じたのは筆者だけだろうか。

本例会の締めくくりとして各分科会のまとめ報告が香川信之氏、長野悦子氏、杉浦元保氏により行われた。昼食後に写真撮影をし、来年の再会を期し実り多き例会を終了した。例会が盛況に終わったのも幹事である佐藤信之、寶崎達也両氏のおかげである。ここに感謝の意を表したい。

〔産業技術総合研究所 衣笠晋一〕

日本学術会議第 19 期会員

日本学術会議第 19 期会員の選出が行われ、本会からは第 4 部に赤岩英夫・寺部 茂、第 5 部に合志陽一・四ツ柳隆夫各氏をそれぞれ会員候補者として推薦しておりました。本会関連の研究連絡委員会の選考結果が以下のようになりましたので、お知らせいたします。

第 4 部 化学研究連絡委員会
相澤益男（東工大、学長）
赤岩英夫（群馬大、学長）